

第2回 ICCG 報告

日本板硝子(株) 情報電子機材開発部

水野 俊明

Report on the 2nd International Conference on Coatings on Glass

Toshiaki Mizuno

Nippon Sheet Glass Co., LTD, Advanced Materials & Devices Headquarters, Development & Engineering Dept.

1998年9月6日から10日まで、ドイツのザールブリュッケンで開催された第2回 ICCG について、以下に報告する。

1. ICCG について

この会議は、名前が示すとおりガラスのコーティングに関する国際会議である。コーティングを施したガラスは、建築・自動車用の他、ディスプレイ・太陽電池など、広い範囲で実用化されている。しかしながら、これらの技術・科学を総合的に議論する場がほとんどなかった。

そこで、2年前、Pulker 教授 (University of Innsbruck), Howson 教授 (Loughborough University of Technology), 鈴木氏 (Surf Tec) らが中心となり、この国際会議を開催した。会場でガラス屋と膜屋が将来の技術・製品について議論しているのを見ると、このような場が設定できた意義は大きいと感ずる。第1回目の内容は、Journal of Non-Crystalline Solids の218巻 (1997年) に掲載されているので参考に願いたい。

なお、この会議は、ICG の TC-24 の活動の

一環でもある。

2. 今回の概要

第1回と第2回は、共に Schmidt 教授 (INM) のご尽力で、フランスとの国境に近い、ドイツ・ザールブリュッケンで開催された。登録者の数は約400名で、現在のような経済状況下、歴史の浅い国際会議であったにも関わらず、相当な参加者であったと思う。

会議の構成は、以下の5つの技術セッションとポスターセッションからなる。

Introductory Session: Market of Coated Glass and Plastics

Technical Session 1: Advanced Technologies by Vacuum Deposition

Technical Session 2: Glass Coatings at Atmospheric Pressure

Technical Session 3: Pre- and Post-Treatment, Evaluation and Characterization

Technical Session 4: Coated Plastics as an Alternative to Glass

Technical Session 5: Application, New Markets, Emerging Products, Trends

ポスターセッションは、5つの技術セッション全て範囲を網羅している。前回も今回も、このポスターセッションは好評で、会場が狭いにも関わらず熱っぽい議論が続いていた。

上記分類から分かるように、ガラス上のコーティングに関するものであれば、真空/常圧、物理的/化学的、無機/有機、前処理/後処理など、基本的には全て対象となる。実際には、真空成膜（スパッタ技術）とゾルゲル技術に関する発表が多かった印象がある。

個々の発表については紙面の都合もあるので割愛するが、全体の印象としては、レビュー的な内容が多かった。筆者のように門外漢には理解しやすく良かったが、第一線で活躍されている研究者や技術者には不満が残る結果になったかも知れない。参加者にとって実りあるものにするためには、今後オリジナルな発表でレベルアップを期待したい。

3. 次回 ICCG について

第3回目の ICCG は、来年 2000 年にオランダのマースリヒトで開催することに Organizing Committee で決定した。具体的な日程は未定であるが、ドイツのデュッセルドルフで開催されるガラスの見本市 GlasTec の直後に予定している。本稿が掲載されている頃には、First Circular が出回っているかも知れない。

この国際会議は歴史が浅く、現在も Organizing Committee で議論しながら、手探りで進めている。より良いものにしていくためには、皆さんのご協力が必要である。次回には真空技術者のみならず、ガラス関係者の方々にもご参加をお願いしたい。